

鳥海山修験の貴重な建造物

もりこ おおものいみ じんじゃ

森子大物忌神社社殿

国登録有形文化財 へ！

国文化審議会は、3月18日、森子大物忌神社本殿と拝殿並びに幣殿の2棟を、山岳信仰の地に残る貴重な近世の宗教建築物として、国登録するよう文部科学大臣に答申いたしました。

これで本市における国登録有形文化財の数は、7件27棟になります。

森子大物忌神社の概要

由利本荘市森子の八乙女山中腹に位置する森子大物忌神社は、江戸時代には「薬師堂」と呼ばれ、大物忌神（本地 薬師如来）として崇拝されてきた鳥海山の登拝口（滝沢口）に建立された遙拝所です。

鳥海山は、古代には国家の守護神として崇敬されました。中世になると、熊野信仰の東北地方への伝播と修験道の隆盛により、出羽国の中心的な信仰の山として崇拝され、山麓には遙拝所並びに修行の場として、六カ所の活動拠点が形成されました。

近世には、農業神としても崇敬されるようになり、鳥海山信仰が庶民に広く浸透した結果、東北一円から「道者（どうしゃ）」と称された参詣者が、山頂の鳥海山大権現を目指すようになり、特に、江戸時代中期以降、隆盛を極めました。

森子大物忌神社境内は、この鳥海山修験のひとつ、羽黒派滝沢修験の活動拠点であり、薬師三尊像と十二神将像（現存）を安置し祀ってきた薬師堂は、その中心的な役割を果たしてきました。境内一円は平成21年7月23日、国の史跡に指定されています。



[本殿向拝廻り]

[本殿]

由利本荘市教育委員会

国登録有形文化財（建造物）

森子大物忌神社

1. 名称 森子大物忌神社 本殿
森子大物忌神社 拝殿及び幣殿
2. 所在地 秋田県由利本荘市森子字八乙女下99-1
3. 所有者 宗教法人大物忌神社
4. 登録基準 二 造形の規範となっているもの
5. 答申日 平成23年3月18日
6. 文化財の概要



〔力士像〕

【本殿】木造平屋建、銅板葺、建築面積19㎡（渡廊付）

八乙女山の中腹に東面して建つ。三間社流造の銅板葺き。周囲に高欄付の切目縁をまわす。円柱で三斗組とし、妻は二重虹梁大瓶束である。正面中央間に両開き棧唐戸を装置し、その前方のみに木階を設ける。庇の虹梁を高く架け、雲竜の彫刻を飾るなど、効果的に彫刻装飾が配されている。建立年代は棟札に大正四年とあり、大工棟梁は畠山清治と記されている。

【拝殿及び幣殿】木造平屋建、銅板葺、建築面積98㎡

本殿の前方に位置する。桁行三間、梁間三間で、背面を二間増築する。入母屋造銅板葺で、正面に千鳥破風と軒唐破風付き一間向拝を付け、背面に切妻屋根を突き出す。円柱で、木鼻付三斗組を組み、中備に墓股を配する。繫虹梁の上に飾られる一対の力士像が印象的である。

建立年代は棟札に安政2年（1855）とあり、大工棟梁は森子村三之丞ほかと記されている。大物忌神の本地である薬師如来を祀る堂宇として建立され、大正に拝殿に転用されるとともに増築がなされた。



ちどりのはふ
〔千鳥破風〕



こうはいぶ
〔向拝部〕
のきからはふ
（軒唐破風）



〔本殿
にじゅうこうりょうたいへいづか
二重虹梁大瓶束〕

用語説明：

- 流造：神社建築様式のひとつで、神明造から発展し、屋根が反り、前に曲線的に長く伸びて庇となったもの
- 切目縁：縁板を敷居と直角方向に張った縁
- 三斗組：組物形式のひとつ
- 虹梁大瓶束：虹梁の中央上に大瓶束を立て、その上の斗組みで棟木を支える妻飾り形式
- 棧唐戸：框（かまち）の間に棧を縦横に組み、その間に障子や板を入れた開き戸
- 向拝：本殿や拝殿で、屋根の一部が前方に突き出した拝礼場所
- 木鼻：複数の縦柱を横に貫いている虹梁等の端に付けられた彫刻
- 墓股：二つの横材の間におく束の一種。カエルが脚を広げた姿に似ている
- 繫虹梁：側柱と向拝柱などを繋ぐ虹梁